

1－1
安定した除排雪体制の確保

短期/中長期		項目	細目	達成状況	主な実績等
短期	企業の除雪事業への参入意欲の促進	除雪業務の通年化と複数年契約 除雪業務の最低補償制度の充実 除雪業務の入札参加企業への受注機会の拡充 相互補完体制の強化	○ ○ ○ ○	・雪堆積場解体業務の一部を総合除雪維持業務に移行し通年契約化 ・最低補償制度を導入(R2)、見直しを継続して実施 ・土木工事等での地域貢献型総合評価方式入札に除雪業務の請負実績を加味(R2～) ・4統合地区内での応援体制	
短期	除雪企業への除雪車両の貸与	除雪車両更新計画の策定と充実 除雪企業での確保が難しいロータリ除雪車等の貸与	○ ✓	・除雪車両等更新計画の策定(H27)、改定(R6) ・9地区への貸与が完了 ・道路除雪機械購入補助制度を導入(R8)	
中長期	近郊の雪堆積場の確保	近郊の雪堆積場の確保	／		
短期	次世代への除雪技術の継承	除雪企業における若年層の入職・定着の促進 熟練オペレータの除雪技術の継承 運転免許取得支援事業補助制度の拡充	○ ○ ○	・PR動画作成、イベント会場でのPR等人材確保に向けた広報活動 ・除雪従事者及び企業の表彰制度 ・オペレータ講習会(H27～R5)、オペレータ訓練除雪(R6～) ・技術をサポートする映像鮮明化装置の導入 ・運転免許取得支援事業補助制度を導入(R1)、補助対象及び限度額を拡大(R3、R5)	

1－2
効率的かつ効果的な車道除雪の推進

短期	道路機能に応じた除雪水準の設定	道路機能や役割に応じた除雪水準の設定 道路機能別の除雪水準の見直し	✓ ✓	・路線種別を幹線道路・生活幹線道路・生活道路・郊外道路・特殊道路に改定(H29) ・幹線道路10センチ、生活幹線道路・生活道路15センチ程度の積雪で新雪除雪を行う除雪出動基準を設定(H27)
短期	除雪出動基準の設定	道路機能にあった効率的かつ効果的な除雪出動基準の設定 多様な降雪状況に応じた除雪出動基準の設定	✓ ✓	・除雪出動基準に満たない連続降雪や朝方のまとまった降雪に対応する出動基準を設定(H27) ・幹線道路は路面の雪氷0～5センチ、生活幹線道路・生活道路は30センチ程度の常時圧雪状態で排雪後は0～5センチの雪氷が残る路面管理基準を設定(H27)
短期	除雪管理基準の設定	道路機能にあった効率的かつ効果的な除雪管理基準の設定 時期に応じた幅員管理基準の設定	✓ ✓	・ザクザク路面発生への対応として、生活道路の圧雪を薄く管理する路面管理手法について検証(R3～) ・路線種別ごとに初冬期や排雪後と厳冬期との時期に応じた幅員管理基準を設定(H27)
短期	交差点における雪処理の強化	幹線道路における交差点付近の幅員確保 生活道路における交差点の見通し確保 交差点における雪処理の取組	○ ○ ○	・右折レーンを確保するため交差点の排雪と付近の切り込みを設定(H27) ・国・道・市の連携協定に基づく除排雪の強化 ・排雪時の交差点45度カットを設定(H27) ・生活幹線の配置と延長を増加し生活道路の交差点に雪を置かず生活幹線に寄せて排雪する取組を実施(H26～)
中長期	除雪作業の管理強化による作業精度の向上	G N S S （ G P S 等 ） による作業精度の向上 市職員による除雪モニタリング	○ ○	・GNSS機能を有するスマートフォンを全地区で600台の除雪車両に搭載 ・除雪車両の運行状況の確認、作業の進捗状況の把握、報告書類の自動作成、除雪車両の運行経路の公開などを実施 ・危険箇所の通報による情報収集 ・市職員のみでなく市民全体から情報提供を受ける通報フォームを導入(R6)
短期	除雪センターの強化	除雪センターの強化 要望の処理体制の強化と負担の軽減	○ ○	・除排雪作業状況入カシステム導入(H28)、GNSSによる除雪車両運行管理システムへ移行(R2) ・支所センターを統合した4統合センター体制へ移行 ・夜間電話窓口を一元化、要望対応の正確性向上に向け通話録音を実施 ・GNSSシステムに苦情要望管理機能を設定し除雪センターと土木事業所で苦情要望内容や処理状況の情報を共有
中長期	除雪業務評価制度の充実	除雪業務評価制度による技術力向上 除雪業務評価への市民参加	○ ○	・除排雪状況の評価を重視した評価制度を導入 ・各地区除雪連絡協議会役員によるシーズンを通した評価を実施

1－3
歩道・通学路の安全確保

短期	歩道除雪路線の選定基準の設定	歩道除雪路線の選定基準の設定	✓	・有効幅員2メートル以上の歩道で歩道除雪を行う歩道除雪選定基準を設定(H27)
短期	歩道除雪における出動基準と管理基準の設定	歩道除雪における出動基準と管理基準の設定 多様な降雪状況に応じた除雪出動基準の設定	✓ ✓	・10センチ程度の積雪で新雪除雪を行う歩道除雪出動基準、幅員1メートル以上を確保する幅員管理基準、路面は常時圧雪管理とする路面管理基準を設定(H27)
短期	学校周辺など通学路の安全確保	学校周辺など通学路の除排雪の強化 学校周辺など通学路除雪の優先 通学路における地域ぐるみの安全対策の推進	○ ○ △	・始業式前の全線歩道除雪・通学路排雪、校門前などの歩道排雪を実施 ・市内小学校から安全マップの提供を受け一部地域で除雪センターショベルによる除雪作業を実施
中長期	協働による歩道・学校周辺の防滑	沿線住民による砂散布体制 学校を主体とした通学路の砂散布体制の推進	△ △	・学校周辺の横断歩道等に砂箱設置 ・具体的な活動状況は未確認

快
適
な
冬
期
道
路
ネ
ッ
ト
ワ
ー
ク
の
確
保

完了✓、一定程度達成○、未達成△、達成困難×

快適な冬期道路ネットワークの確保

現『旭川市雪対策基本計画（令和4年1月改定）』に基づく施策の検証・評価一覧 資料5

資料5

完了✓、一定程度達成○、未達成△、達成困難×

施策の項目

目標

短期/
中長期

項目

細目

達成
状況

主な実績等

1－4
凍結路面对策

短期

ロードヒーティングの設置基準の設定

ロードヒーティングの設置基準の設定
効率的かつ効果的なロードヒーティングの整備

△
○

・ロードヒーティング設置基準は策定済(H20)
・宮下・1条仲通歩道設置(R1)

短期

ロードヒーティングの更新計画の策定

ロードヒーティングの更新計画の策定

○

・ロードヒーティング更新計画どおり更新が進まず老朽化が進行

短期

防滑材の散布

効果的な防滑材の散布と清掃

○

・定期的な散布を止め路面状況に応じた効果的な散布を実施(H29～)

1－5
雪処理施設の確保

短期

雪処理施設の配置計画の策定

大雪時にも対応可能な計画搬入量750万m³の確保
効率的かつ効果的な雪堆積場の配置
配置計画策定の基本的な考え方

○
○
○

・雪処理施設配置計画を策定(H27)
・R2に計画搬入量750万㎡を超える794万㎡の搬入実績があったこと、R3から生活道路の排雪を強化したことから、河川敷雪堆積場のシーズン当初からの嵩上許可等により910万㎡を確保

中長期

恒久的な雪処理施設の整備・更新

恒久的な雪処理施設の計画的な整備・更新
都市部における工場排熱を利用した雪処理施設の整備

△
×

・西部融雪槽計装設備更新(R1)
・未実施、雪処理に十分な熱源の確保が課題

短期

民間遊休地の活用

民間雪堆積場の拡充

○

・民活提案型雪堆積場の確保

短期

流雪溝・消流雪用水導入事業の推進

流雪溝の有効利用の推進
消流雪用水導入事業の推進

△
△

・管理運営協議会開催
・管理運営協議会開催

短期

地域の雪押し場の確保

地域の雪押し場の確保
雪押し場としての公園利用

△
○

・除雪センターが利用する空き地は減少
・雪押し場としての公園利用を拡大

中長期

宅地内の雪処理施設の普及

家庭用雪処理施設の普及

○

・住宅雪対策補助制度(旭川市住宅雪対策補助金)の見直し

1－6
暴風雪や豪雪への備え

短期

豪雪時除雪体制の構築

平時からの関係機関との連携
緊急除雪路線網図の整備
豪雪時の雪堆積場の緊急確保
災害時の応援体制の確保

○
○
○
○

・土木部雪害配備体制を作成
・道路除雪連携会議を開催
・緊急除雪路線網図を更新
・緊急雪堆積場の確保
・旭川除排雪業者ネットワーク協議会に非常事態協定を要請

短期

暴風雪や地吹雪時の対応

暴風雪・地吹雪対応マニュアルの策定
平時の意識啓発

○
△

・暴風雪・地吹雪対応マニュアルを策定
・意識啓発の具体的な取組実績なし

短期

市民や関係機関との情報共有体制の構築

市民へのリアルタイムの情報提供
各道路管理者や消防、公共交通機関との連携

○
○

・SNSなどに気象状況や除雪作業情報を掲載
・交通規制の情報を警察・消防・公共交通機関等に提供
・道路管理者、交通管理者、公共交通機関で構成する道路維持連絡協議会を開催

中長期

気象情報システム活用を検討

気象情報システム活用を検討

○

・気象情報システムの閲覧、利用

中長期

豪雪時における地域除雪活動の検討

暴風雪や豪雪時の地域除雪活動

×

・未実施、制度化するには課題が多い

2－1
地域総合除雪体制の充実

短期

地域総合除雪体制の推進

地区除雪連絡協議会の活性化

△

・シーズン前後の年2回開催(R1～)
・協議会の出席率は減少傾向

中長期

除排雪計画における市民参画の推進

除排雪計画における市民参画

×

・作業効率等を踏まえて生活道路の除排雪順番を決定しており、市民参画は未検討

短期

地区除雪連絡協議会と地域まちづくり推進協議会との連携

地域まちづくり推進協議会との連携
地域総合除雪体制の地区割りの見直し

○
✓

・地域まちづくり推進協議会と整合する地区割りの見直しを実施、完了

2－2
市民協働による地域除雪活動の推進

短期

市民協働による地域除雪活動の推進

市民・企業・行政の役割分担の明確化
地域除雪活動の推進

○
○

・基本計画にて役割分担を明確化(H27)
・旭川市雪対策基本条例の施行(R5)

短期

地域除雪活動への支援制度の充実

助成金による支援の推進
既存の支援制度の充実
除雪車両貸出制度

○
○
○

・小型除雪機等貸出制度の貸出期間を拡大するも、貸出の大幅な増加には至らず
・除雪車両貸出制度の利用数低迷

中長期

冬みち市民パトロールと冬みちマップの作成

冬みち市民パトロールの実施
冬みちマップの作成

○
○

・市民・企業・行政の3者で合同パトロールを実施
・R7にこれまで3者合同パトロールで共有してきた要注意箇所を冬みちマップとして取りまとめ

短期

地域除雪活動による雪押し場の確保

地域除雪活動による雪押し場の確保

／

中長期

地域除雪活動による防滑作業

地域除雪活動による歩道・学校周辺の砂散布

／

快適な冬期道路ネットワークの確保

市民協働の推進と除雪マナーの向上

現『旭川市雪対策基本計画（令和4年1月改定）』に基づく施策の検証・評価一覧

資料5

施策の項目		目標		完了✓、一定程度達成○、未達成△、達成困難×		
		短期/ 中長期	項目	細目	達成 状況	主な実績等
市民協働の推進と除雪マナーの向上	2－3 除雪マナーの向上	短期	戦略的な広報活動の推進	通年における広報活動の充実 世代ごとに広報ツールを充実	○ ○	・広報誌やチラシ、ホームページ、テレビCM、SNSなど多様なツールによる広報活動を実施
		短期	市民意識の啓発活動の推進	除雪教室・出前講座の開催 除雪見学会やフォーラムの開催	○ ○	・除雪教室・出前講座の開催 ・市民委員会・町内会単位の除雪説明会や除雪相談会を開催
		短期	警察と連携した道路への雪出しや路上駐車のパトロールによる指導	冬みちパトロールなど地域除雪活動と連動した取組 警察との連携 除排雪作業後のパトロールの実施	△ ○ ○	・旭川市雪対策基本条例の施行(R5) ・道路維持連絡協議会での連携を継続 ・排雪作業後に職員による早朝パトロールを実施、雪出し箇所のマップを作成
	2－4 雪対策における情報発信の推進	短期	市民に分かりやすい表現方法の工夫	市民に分かりやすい表現方法の工夫	○	・除排雪を分かりやすく紹介するPR動画やイラストを用いた広報プロモーションの実施
		短期	誰もが情報を入手できるよう情報媒体の多重化の推進	情報媒体の多重化の推進 暴風雪時におけるリアルタイムの情報発信	△ △	
		中長期	ソーシャルメディアの活用	ソーシャルメディアの活用	△	
		中長期	除雪作業の可視化	除雪作業の可視化	○	・新雪除雪、整正作業、郊外除雪を実施した除雪車両の走行軌跡の公開 ・気象状況や除排雪作業の進捗状況、排雪計画などをHPやSNSで発信
	3－1 高齢者等の移動手段の確保	中長期	中心市街地における冬期バリアフリーの推進	歩道ヒーティングの計画的な整備	✓	・都市再生整備計画における歩道ヒーティング整備は完了(R1)、現時点では新たな整備計画なし
		短期	快適な公共交通機関の確保	公共交通事業者との連携 公共交通機関の運行経路における除排雪の強化	○ ○	・道路維持連絡協議会の開催 ・バス路線の路面管理、対象路線の拡幅除雪の実施
	3－2 除雪の担い手不足の解消	短期	地域除雪活動の推進	地域除雪活動による除雪の担い手の確保 地域除雪活動の充実	△ ○	・担い手確保の取組として企業や組合学生等への呼び掛けを実施 ・地区社会福祉協議会が実施する地域の除雪・排雪事業に対して補助金を支出
中長期		自助・共助の機能強化	自助・共助の機能強化	○		
中長期		ボランティア育成の推進	除雪ボランティアの確保 除雪ボランティアの育成 企業や学校との連携	○ ○ ○	・広報誌や学校等への協力依頼 ・健幸アプリやSNSでの発信 ・中学生への案内プリント配付等	
3－3 除雪弱者への支援制度の推進	短期	除雪弱者への支援制度の推進	住宅前道路除雪事業 高齢者等除雪支援事業 小型除雪機等貸出制度 高齢者等屋根雪下ろし事業 福祉除雪サービス事業 福祉除雪ボランティアマッチング事業 住宅雪対策補助制度旭川市住宅雪対策補助金	○ ○ ○ ○ △ △ △	・住宅前道路除雪事業へ町内会などの協力団体が参加(R2～)、対象世帯の要件見直し(R4)、 ・各事業を継続	
	中長期	利用しやすい支援制度の仕組みづくり	除雪支援制度の充実と質の向上 相談体制の充実 情報提供の推進 利用しやすい制度づくり	○ △ △ △		
親雪・利雪・克雪の推進	4－1 雪と親しむまちづくり	短期	雪のイベントと冬期観光	冬期アクティビティの充実	○	・冬季プロモーション及び冬季イベント開催
		中長期	雪と親しむスポーツの充実	冬期スポーツ取組の機会の提供 子どもへの冬季スポーツ取組の機会の提供 冬季スポーツ大会の充実 冬季スポーツ施設の整備 効率的な施設利用の推進	○ ○ ○ ○ ○	・バーサーロベット・ジャパンの実施 ・歩くスキーコースの設置、 初心者向け講習会の実施 ・冬季「市民スポーツの日」事業実施 ・カムイスキージングスの改修
	4－2 雪を利用した技術の活用	中長期	雪氷冷熱エネルギーの利活用の調査研究	雪氷冷熱エネルギーの利用	△	・周知啓発活動の継続
		中長期	寒冷地技術開発における研究機関との連携	各研究機関などとの連携	○	・雪対策審議会において寒地土木研究所及び北方建築総合研究所の研究員を委員に委嘱(R2～)
	4－3 雪に強いまちづくり	中長期	雪に強い住環境の整備	快適な冬の住環境の創造 安全・安心な住環境の確保 雪に強い街区づくり	○ ○ △	・落雪対策の指導や注意喚起 ・旭川市空家等対策計画策定(R4)、空き家の管理者等に対する指導や注意喚起 ・地区計画区域内での届出のあった物件に対する確認
		中長期	冬期バリアフリー対策	冬期歩行環境の向上 バリアフリー促進経路の整備推進	○ ○	・冬期バリアフリー路線での歩道除雪を実施

1-1 安定した除排雪体制の確保
企業の除雪事業への参入意欲の促進
除雪企業への除雪車両の貸与
近郊の雪堆積場の確保
次世代への除雪技術の継承

1-2 効率的かつ効果的な車道除雪の推進
道路機能に応じた除雪水準の設定
除雪出動基準の設定
除雪管理基準の設定
交差点における雪処理の強化
除雪作業の管理強化による作業精度の向上
除雪センターの強化
除雪業務評価制度の充実

1-3 歩道・通学路の安全確保
歩道除雪路線の選定基準の設定
歩道除雪における出動基準と管理基準の設定
学校周辺など通学路の安全確保
協働による歩道・学校周辺の防滑

1-4 凍結路面对策
ロードヒーティングの設置基準の設定
ロードヒーティングの更新計画の策定
防滑材の散布

1-5 雪処理施設の確保
雪処理施設の配置計画の策定
恒久的な雪処理施設の整備・更新
民間遊休地の活用
流雪溝・消流雪用水導入事業の推進
地域の雪押し場の確保
宅地内の雪処理施設の普及

1-6 暴風雪や豪雪への備え
豪雪時除雪体制の構築
暴風雪や地吹雪時の対応
市民や関係機関との情報共有体制の構築
気象情報システム活用を検討
豪雪時における地域除雪活動の検討

【市民協働による地域除雪活動の推進】
○町内会加入率の低下、役員の高齢化などの現状から、地域除雪活動の持続可能なあり方を検討していく必要があります。
○旭川市では、近年の社会情勢の変化や新たな地域課題に対応するため、R8.4月に「旭川市地域自治推進ビジョン」の改訂も行われています。
○地域除雪活動の推進にあたっては、「旭川市地域自治推進ビジョン」の考え方に基づいて、具体的な取組を整理していきたいと考えています。

継続すべき施策など		資料
		7
企業の除雪事業への参入意欲の促進	②	
除雪車両や除雪従事者の確保に向けた支援	②	
除雪企業への除雪車両の貸与	②	
除雪水準や各基準の設定に基づく除排雪の実施	①	
気象変動を踏まえた路面管理の継続	①	
国・道・市の連携強化	①	
除雪DXの推進	②	
除雪業務体制の集約と充実	②	
歩道・通学路の安全確保	①	
老朽化した融雪施設の計画的な更新	②	
雪処理施設の確保	②	
市民の安全や生活を守るための防災の推進	①	
市民協働による地域除雪活動の推進	③	
除雪マナーの向上	③	
公共交通機関の運行確保	①	
地域の助け合いの推進	③	
除雪弱者への支援制度の推進	③	

【親雪】
○次期雪対策基本計画を冬期交通の確保や除排雪体制の確保といった雪対策の目標に対してより**実務的な計画**とするために、施策の項目からは外したいと考えています。

【雪氷冷熱エネルギーの利活用】
○旭川市総合計画を推進するための横断的視点として、GX(グリーン・トランスフォーメーション;脱炭素、エネルギー安定供給、経済成長の3つを同時実現することを目指す考え方)が位置付けられています。次期計画でも、雪氷冷熱エネルギーの利活用の視点は各施策の検討の視点の一つとして取り入れていきたいと考えています。

2-1 地域総合除雪体制の充実
地域総合除雪体制の推進
除排雪計画における市民参画の推進
地区除雪連絡協議会と地域まちづくり推進協議会との連携

2-2 市民協働による地域除雪活動の推進
市民協働による地域除雪活動の推進
地域除雪活動への支援制度の充実
冬みち市民パトロールと冬みちマップの作成
地域除雪活動による雪押し場の確保
地域除雪活動による防滑作業

2-3 除雪マナーの向上
戦略的な広報活動の推進
市民意識の啓発活動の推進
警察と連携した道路への雪出しや路上駐車のパトロールによる指導

2-4 雪対策における情報発信の推進
市民に分かりやすい表現方法の工夫
誰もが情報を入手できるよう情報媒体の多重化の推進
ソーシャルメディアの活用
除雪作業の可視化

3-1 高齢者等の移動手段の確保
中心市街地における冬期バリアフリーの推進
快適な公共交通機関の確保

3-2 除雪の担い手不足の解消
地域除雪活動の推進
自助・共助の機能強化
ボランティア育成の推進

3-3 除雪弱者への支援制度の推進
除雪弱者への支援制度の推進
利用しやすい支援制度の仕組みづくり

4-1 雪と親しむまちづくり
雪のイベントと冬期観光
雪と親しむスポーツの充実

4-2 雪を利用した技術の活用
雪氷冷熱エネルギーの利活用の調査研究
寒冷地技術開発における研究機関との連携

4-3 雪に強いまちづくり
雪に強い住環境の整備
冬期バリアフリー対策

資料5-2